

教 仇

繪本四季物語

後編

二

913.5

工

後物 2

報仇四季物語後編卷之二

遠州日阪住於浪花耶人亭

栗杖亭鬼卯著

東武慶上遊浪速客舎之日

山東京山校

第十三齣

老狐盤井の危難を救

おも佐保川市糸の心移つよあま成社素一たまひまら

二見致然波迎大神文坂のころねく狂巻あつ。鴉鴉石

小て盤井小争曲は屋とたまひ二曲終るは日月も西に

かふふきけをば盤井坂守たまひ街にまきしといへども

美留小もねりなば具かえつて不具まやううなんと

日本初巻

供と觸と盤井路里富里佐とも。内宮の御所
方へかつたまひ。聖日金沢へのそつたまへて御所
さまへ送るの成なり。新奈をてふ所まで見
送るやそればまより何漕が浦越がうらむ。白子の親
音小糸溜し。不乃橋成まがらたまひ。日市をの名
小より時雨吟とも。此土産は酒の素名よりふねを
勢田のやしろへたまへてむひかの在中のそりへ
ぬる旅成かりひし。右身成志たひハッ指寺より岡
邊小ありたまへども盤井路里富里まといふとい

如所もけあそりみあらねば吉田の歌二階うら
まひく麻の子のふ王他もけく小たまへみ成
葉ハましへおうしりれまより白髪の里溪名
の橋ハ名のそりて船よて香坂へ後り。昔より
布成りけ川の里成はなまし。伊達方村を京
小ありたまへふいと奇廉なる草菴あり。屋の
築山林泉の橋橋よりある人の住あならんと。
佐保川はあまより。葉成をたまへば五ツ斗
のいと勇しと小壘葉成さしととさま。机と

四季抄記 卷二

よ教書教多様なまば佐保川市前も
帰くけ家小へ陸人の秀保多入とたけぬまば
小童私保とづると若らるよおどろき主人
呼て尋ねたまふよまを答へていっふもけ小童
高きよりおはすして尋保とべるえ系ハ石川
氏ふてぞく居夜教け小童ハお庭と中
あつろとに教保出し内保せしつふよ佐保
川市前いふくおどろき小児と例へて
子などよへ自教保出とべきが保たまんやと

あまば小童うら然づきいりする
たまへ保付らんとつふよまうらつふとして
保の山とつふ教よて保たまへとつうられ
あまば小童うら然づきいりする
たまへ保付らんとつふよまうらつふとして
保の山とつふ教よて保たまへとつうられ

能細通と高たお保出し経冊よ保め若出せば佐
保川市前ハつふもまうら盤井路里里も
志バ一何も出ざりけり佐保川市前
何年け小童保大井川と備したまへとまに

糸母よあふ糸日坂より小坂中山道とて野のうらとて
秋とよませたま入るもほほ小はめて大井川まで
とと川端まで今一首あまの秋と承たまくと宮
思ひもやと余波のねほ川流は流れて神流ととい
わくよとて出るもいづのく右坂までと引出の
わくよとて出るもいづのく右坂までと引出の

佐老曰け小童のう後に出るもあらねど遠
品伊達方村石川氏の息為五葉より
秋承てけ西首ハ美と五葉の時やごとく

此方の山ふ登りて海出せる秋より美事
形り虚淡に実成受るも一具とやごとく
き山方坂佐保川山麓となし書系伝へ
け後あまりの短うりとはぬり為花の菴ハ
を川日坂の間草かづり花葉拂成ひさく
家より好士のやまをきて其高仙成系し
そまより島田守の谷とてく奇量事と再
たびいひさしたまひ安坂川成りらとて
より海士の奥方さま富士の根成雲いたる際と



先瓶盤井
今、新田即也
取



四季物語

卷二

五

一人の僕ハ作天して近矢りまばるる藤田島ハ
 折々してさてしゆくしなきまばりて大骨飯
 折々しそらうまむに於て登る林裏のやうこと
 個ダハんと上方さして急げり近去し僕ハ根
 小かけ奉り佐保川内前よ盤井が横死の横子と
 告るまば皆く作天して是が平に立戻盤井
 が死骸取てあまは今と容室たりとらうとら
 不思議するうぬ池の氷れど忽ち消失て伊
 豆と相換の傍ふねとと小とゆわと切取して

うりけまば佐保川内前とはは再なび愕然と
 かどろきいうぬる候とつるみ取まらぬを誰一人
 何故出とりのとあらず時よ一人の姫様もは
 ねしく其四うらるひまわり口をうてまらるの只今
 まぐ出伏せし盤井取人るとおぼしうをわが我
 ハ何ち破辺の山奥よ年強る女狐よとらる盤井
 ぬしの争の妙音かくとふけまばおれどとき
 畜生まぐも其曲と慕ひ竹竿鴉鴉の石面小
 け妙曲を尚垂んと狐仲間をわいせ佐保川内前と

破迎又付ひ那の通石面よ妙き候にぬらまは
 長く三曲の程事、破迎も面び一又鑿井至八
 高年程余の運ふて近き方るも余故たまひ
 寂く争曲の所とあふきたまは行年成難と故人
 佐保川は家の内江小抗件名居並して曲故たまひ
 鑿井ぬ一小化して佐中び小も、本まじり、突の赤
 己國の西と抗の支配ちうひて突ら赤、行年計
 八ばけ亦と出るま中一人とありふら、年深き難
 己事、後よ登事候傳ら一と、本平とけ、亦は好文

房ら田へ鑿井ぬ一小代正し、難記年、さよ
 又く一とて、世は、後程余の運とらて、集らま
 た己鑿井ぬ一、親の敵と孫ら、人、何、路
 とうと方へのほきたまへ、か、さ、か、禁、に、又
 べ、う、ま、本、空、城、遠、一、た、ま、で、再、安、金、以、候
 た、ま、一、何、路、ま、見、た、の、内、敵、よ、候、み
 か、と、し、も、有、難、事、心、い、と、ま、た、し、と、い、ふ、と
 お、も、し、た、は、難、事、亦、よ、に、と、ま、し、と、い、ふ、と、い、ふ、と
 今、美、の、お、も、し、と、い、ふ、と、い、ふ、と、佐、保、川、山、が、見

盤井の妻のあはれにたまたまの姫はあつた
 とまへへお抱へて家の外へ来たたまたまは田原
 来箱根に付たまへへ小田原まで行つた伊豆の
 やうと盤井の妻が夜寝て目覚めよつた
 たまたまあつた姫の守備は盤井の
 御もたのしきかへへいふて返る
 金銀の籠へへはしる

○第十四巻

盤井姫の御守
 嵐山七三郎判官御殿

佐保川に流るる遠くまであつた
 馬里三人は金銀拾五両にのけて
 一の舟に乗る金銀の舟に乗るふり
 判官の舟に乗る盤井の御守は佐保川に
 したまへへお抱へて知れぬ御守
 鬼の舟に乗る舟に乗る舟に乗る舟に乗る
 じつとふりて一國の御守は山
 ちんちん（？）の御守は御守は御守は御守は
 打縁の御守は御守は御守は御守は御守は

の湯衣狐個へ是成とよ引らる。保さるる成買ら
 かづら。奥成屋一田舎道者の系々のとまに作ら
 妙見町まで来りし。途くの通中への敵よ忠舎
 事もしらる。がこまに小刀一本さくといふ。ぬし。行
 とぞ名作の細もあつ。個へんとおまひひて。朝の
 茶店よ休し居らる。ゆるゆる。おへ浪人ゆきたる男
 と。町人らしき人と。竹角也一合。是もは茶店よ獨
 ぢにけ。咄し。と。盤井のまうさふけて。人よ成
 見らさし。と。居らる。つぶきす居らる。彼浪人声と

ひとめ。先刻よりとく。わたの。と。通ら。け。刀。の。成。人
 ぞ。お。落。い。五。郎。正。宗。と。よ。いら。折。紙。も。係。たる。が。後
 まき入用ゆえお拂をし。竹年只今金五兩情用
 いたし。今日中五兩の金。つられば。叶とぬ
 ちへに。と。百。枚。の。折。紙。付。一。代。物。成。五。兩。の。枚
 さん。と。つ。入。る。成。成。推。量。あり。て。竹。年。金。子
 ぬ。か。し。下。と。ま。よ。し。低。成。して。た。の。と。な。れ。ば。町。人
 亦。然。き。ま。い。成。難。成。ら。ん。是。其。刀。成。お。見。し
 せ。し。と。と。小。名。と。ぬ。さ。も。と。よ。明。成。て。と。し。て



次毛の紐ともりのしき名能まうぶと改たむるに
 いらふよお遣あくるむらじぶ籍よふさめぬ程池分
 屋敷物ともんえふり。を極の上能とにけひふぶ
 持合せし金子。三兩さらでつあしす。是をいれ
 ささきりら。佃中ぐりとの入よ浪人の大ひよ迷
 敷の舳も中五兩拾兩よ放とばま室よ
 あくねど。急小入用の候あまきバくも。五兩とる
 何年五兩よはるのへ下とれまぶ生む世の心懸
 と。なるごとと流しねぐひりまぶひりくきくも向

志うぐり入用よ是ま。かへぬえせあるべしと
 あへねば浪へ。免方よらま。足下とりのるる
 よて。けふとこま。うら返替ありていひ人ともこ
 事ま。いけ金ぬけてい生ても死でもうと。是れと
 極めし。而りらま。ま出る小町人のえひきもせて
 引ふまのつらま。は浪人極ぬりふか。うび。死と
 きいめし。やうとまま。は。盤井なるに。あひす。ま
 名紐の目し。ま折るま。浪人と。あつら。ま。あ。余
 へま。ぐら。け。る。り。五兩あ。ら。む。時。の。命。ふ。も

及ぶるに教を以てたに一々修るる事あり
 金子のあはれを以て其親を以てし
 尸(カ)中(カ)の人の流(カ)一(カ)行(カ)志(カ)の(カ)方(カ)
 の(カ)有(カ)世(カ)の(カ)心(カ)の(カ)け(カ)る(カ)事(カ)也(カ)親(カ)代(カ)の
 親(カ)人(カ)の(カ)涙(カ)を(カ)以(カ)て(カ)推(カ)量(カ)す(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)後(カ)下(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 井(カ)五(カ)上(カ)改(カ)め(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 り(カ)也(カ)一(カ)金(カ)子(カ)五(カ)兩(カ)と(カ)出(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の

の(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 以(カ)て(カ)生(カ)ず(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 救(カ)ふ(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の
 事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の(カ)筋(カ)の(カ)切(カ)れ(カ)る(カ)事(カ)也(カ)一(カ)體(カ)井(カ)の

代に五藝一徳あるは、お披露儀、お披露儀
 中、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 本、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 命、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 小、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 の、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 金、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 五、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 兩、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 の、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 五、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 兩、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 の、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀

個、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 の、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 五、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 兩、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 の、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 五、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 兩、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 の、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀
 儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀、お披露儀

山嵐 七郎 盤井の 老郎 故



父源をまがを切殺し立退し曲もの
 自ハ桐刃金次百縁長老よま仕せし父が
 名をとりて中といく。行年仇仇後さんとんを
 一おけな奥方系家の供にまうし一お瓶のみに
 此供よとらまし一仇幸ひに父の仇仇祓らんと
 於よある母妹仇尋共く山平らん去まがし。世に
 小て一り一敵は出合らるとも。行を以て本を仇返人
 母あわしやと。おもいば口をきし一仇せめて。保られし
 死。かく愛目おあひも。刀の仇女のつらごらふと。

不意したまはんと。およほし一大事なめし。仇を
 成もましく。仇らるまは。嵐山子仇打て共。武源をま
 とらし。菅原家と親れたる。聖旦を。おまは。お
 の時。行内へ。立紙と。是。而。合。せ。し。事。あり。お。い。其。娘。女
 なる。う。や。共。う。い。お。なら。ぬ。婦。人。か。ら。あ。り。て。親。の。敵
 仇。討。せ。系。ら。せ。ん。の。易。く。れ。と。迷。ら。ま。は。盤。井。の。砂。く
 か。仇。討。ち。ぬ。せ。と。う。大。金。取。も。て。刀。仇。自。に。あ。え
 た。ま。ひ。入。り。又。助。太。刀。し。て。後。は。ら。ん。と。の。内。事。身。に。余。り
 娘。し。ま。が。ら。逆。の。事。お。ま。め。と。あ。り。て。た。ま。は。ら。ん。や。逆。に

男の敵なきがらよし〜カとおりの侍らんぬまふま
男のまわりの不道人ふて信徳の平次をかくして
まゝ持てくるこり〜るゝ奥方のあらずばげねがひ
此中をくゞられよと眼尻よまぬ合ませ述べまをせ
三郎も思ふまゝならずをの一ま我とても未だるまわ
あらねども嫌なく通じらぬまゝと〜男のせざるこそ
いゝなる人ふても嫌なたのそ其上とそをせんままでの
平次と〜況は揃付〜。別井の行くは後〜られ
盤井も以てなる藤田島が返〜たる目貫と〜

男の初め〜と〜と〜のま舞緑の平と〜中よ〜
せ〜あゝまの紀念に〜たびたま〜と〜
ま〜一緒に〜へ〜母妹も〜
幼き〜七と〜と〜。素は〜。十日の角力
賣切たまへ。容易ふの扱〜。〜
此方い〜へ〜敵の〜
ねく〜
名跡い〜と〜
〜と〜

人もあつたまじりてお子の苗受さらし五六人をうつくし
 多集おひ首尾いとひそく声なき浪人と見えし
 男あつた見えし海も出来しうらとつたにむすめと
 ひそめ女が母あはしやとつたをすけ魚と一被刀取
 安ら賣付再び仲間を退人と見え五十兩持刀の
 かつた右市へ賣付て嵐山七と名づつたさう出
 あつたら魚の漁しとれども五十兩といふけるし此
 既今昔いまたまへとつた女赤濱うぬら漁人商買
 志なぐりまゝとて奉りてとかり入かやあめの女とコリヤ

とつとと耳は口そんまらとよくの

おあて とい 初め 千ヨシ



